

令和元年度、学校評価における年度末の報告

進学指導部
森下 文弥

設定目標(抜粋)

1、選抜クラスについて

- ・1年生を2クラス編成にする。
- ・学級担任、教科担任の指名について
- ・スタディーサポートについて

2、看護医療系について

- ・看護医療ガイダンス等を実施し、適切な進路選択を促す。
- ・看護医療の学力(専門用語、計算力等)の向上
- ・看護体験の促進

3、放課後の特別講座について

- ・講座内容の充実
- ・検定や資格講座を中心に、講座の増設

4、清和大学併設校入試について

- ・入学者50名、特待生5名を目標に、勧誘する。
- ・公務員ガイダンス等を含め、清和大学との高大連携を進める。

5、清和大学短期大学部併設校入試について

- ・入学者70名、特待生5名以上を目指す。
- ・新校舎の完成をPRする。

点検・評価項目	自己評価		総括・意見等	特記事項
	優れている＝3	適切＝2		
1、選抜クラスについて	3		<p>選抜クラスの編成は、1・2年生は2クラス。3年生は1クラスであり、次年度より、3学年とも2クラス制で実施していく。学年別にみると3年生は、指定校推薦、公募推薦での合格者は例年並みに出たが入試改革前年の影響もあり、AO入試において苦戦を強いられた。また、進学以外の進路、民間企業や公務員への進路希望者も例年より多くみられた。2年生においてクラス替えの影響が好結果につながり、クラス内、クラス間の競争意識が生まれ、切磋琢磨を促すことができた。放課後特別講座の参加者は前年より減少傾向だが新規に導入した学習アプリ、スタディーサプリの利用登録者は多く意欲を感じられる結果となった。1年生は、やはり例年通り、クラス内、クラス間での学力格差が顕著にみられ、進学への意識もやや低い。前々年より導入実施しているスタディーサポートは、「生徒指導の資料として有用である」「レベルが高く、生徒の現状にあってない」「モチベーションの向上につながった」など賛否両論の声が、各クラス担任から上がった。</p>	<p>放課後の特別講座に加え学習用アプリ「スタディサプリアプリ」の導入を、各学年選抜クラスに導入・購入を検討。選抜クラスの担任会議を数回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2クラスの制度は、競争という意味では効果があった。 ・クラス内、クラス間での成績の格差があり、授業の重点ポイントがぼやけてしまう。 ・教科によっては生徒の不満が多い授業がある。教科担当の厳選を進めてほしい。 ・就職希望者やAO入試で早く進路が決まった者などが一般入試での受験で頑張っている者の障壁になってしまっている。 <p>進路ガイダンス(外部)の実施によって進路意識が大きく刺激された者が多かった。</p>
2、看護医療について			<p>看護医療の希望者は増加傾向にあるが、安全、確実な進路を希望するためか、指定校推薦希望者が増加し、学費の面を考慮し、四年制</p>	<p>看護医療系の進路は面接等の人物重視の傾向から、学力重視の傾向に確実に変わりつつある。</p>

	3	<p>大学よりも三年制の専門学校を希望する傾向が強まった。AO入試や公募推薦では近年で最も苦戦し、指定校推薦入試や一部の公募推薦以外では合格が難しくなっている。看護学校においては、従来の面接、書類などの人物重視から、数学・理科・国語・英語などの学力重視の傾向に変わってきている。一般入試は推薦入試等 비해多くの合格者が出ている。放課後の特別講座や家庭学習、模擬試験などでしっかりと実力錬成に努めたものが合格を果たしている。</p> <p>準看護学校は今年度から推薦入試を実施し、2名が合格を果たした。県内に看護系大学が増設された影響もあり、一般入試の難化傾向が予想される。</p>	<p>確かな学力を身につけなければ、これからの競争に勝ち抜くことは難しく、1・2年生のうちからカリキュラムに数学を取り入れたり、看護系の進路を意識した授業や放課後講座を設定する必要がある。</p> <p>また、看護医療系の進路希望者を指導するための教職員の人数の増加と個々に適切な指導を行うスキルアップが望まれる。模擬試験や夏期講習、冬期講習などを経験し、他校や全国のレベルを認識し、競争できる実力の錬成が望まれる。</p>
3、放課後の特別講座について	3	<p>放課後の特別講座の受講者は延べ220名を超えた。学年を重ねるにつれて受講者が減ってきている傾向は変わらず、講座数の増加と、講座内容の充実が望まれる。</p> <p>また、英語や数学などの講座では受講者の中で実力差や習熟度に差があり、複数のクラス編成が理想であるが、担当教員の確保が難しくニーズに応え切れなかった。</p> <p>新規に開講した日本語検定講座は好評で、初年度9人が日本語検定2級(高校卒業程度)に合格した。漢字検定や英語検定、世界遺産検定は今年度に限り、全体的に受講者減少傾向にあった。</p>	<p>例年同様、検定試験の講座(英語検定、漢字検定など)に受講者が多く集まったが入試改革の影響で、様々な方面で学力重視の入試傾向があり、放課後特別講座においても英語や数学などの講座をもっと受講するよう進めていく必要がある。</p> <p>特に看護医療系の進路希望者は数学や理科の実力不足、学習不足が足かせになっている。</p> <p>また、今後学習アプリの導入も検討しており、放課後特別講座の在り方を抜本的に改革する必要がある。</p>
4、清和大学併設校入試について。	3	<p>(1月15日現在) 清和大学 併設校入学者 41名 AO入試合格者 8名</p> <p>清和大学・短期大学部 併設校入学者 46名</p> <p>学年人数は、昨年度より約100名の減であったが、清和大学への進学者は増、短期大学への進学者はほぼ同数であった。</p>	<p>新校舎落成の効果もあり短大の希望者はやや増加傾向にあったが、進路変更や学部学科変更によって短大を希望するものは考えにくいので、1・2年生のうちから、短大への進路指導を徐々にすり込む必要がある</p> <p>清和大学は、他大学の入学定数厳正の影響を受け、軒なみ好調であったが、質の向上という点では不十分であった。</p> <p>また、特待生の人数もやや減となっており、やはり学力の慎重が急務である。</p> <p>放課後講座などで、短大特待生の指導も考えていく必要がある。</p>